

## 論文審査の要旨および学識確認結果

報告番号	(甲)／乙第	号	氏名	湯澤 秀人
論文審査担当者：				
	主査	慶應義塾大学	教授	工学博士 岡田 謙一
	副査	慶應義塾大学	教授	工学博士 萩原 将文
		慶應義塾大学	教授	博士(工学) 重野 寛
		慶應義塾大学	准教授	博士(工学) 高田 眞吾
<p>(論文審査の要旨)</p> <p>学士(工学), 修士(工学) 湯澤秀人君提出の博士学位請求論文は「分散環境における業務状況提示に関する研究」と題し, 全6章より構成されている。</p> <p>湯澤君の研究の目的は, 分散するワーカー同士が協同しながら業務を遂行する分散環境において, 業務状況を共有することによって, コミュニケーション, 特に円滑な割り込みを可能にする業務状況提示モデルを提供することである。</p> <p>具体的には, 分散環境での突発的なコミュニケーションの円滑な開始を実現するため, 抱えている個人ワークの状況や会議の状況など, 受信者の業務状況を提供するモデルである。本モデルの効果を確認するため, 業務の典型例として, 個人ワークと会議を題材とし, それぞれに適応したプロトタイプを実装した。個人ワークにおいては, 業務状況として, タスクごとの割り込み容認状況をメンバー同士で共有するシステムを設計した。検証の結果, システムによって交渉に関するメッセージ数, 不適切なタイミングのメッセージ数が減少する効果を確認した。会議においては, 会議参加者の相対的な状態から会議の状況を特定して通知する会議状況提示システムを用いて, その効果を検証した。その結果, 「会議参加者自身の状況」が割り込み抑制に与える効果を確認した。以上の結果から, 本論文で提案した業務状況提示モデルは, 分散環境における突発型コミュニケーションの開始支援に有効であることを確認した。</p> <p>本論文の構成を以下に示す。本論文は全6章から構成され, 第1章では本研究の背景と位置づけ, 学術的貢献について述べている。</p> <p>第2章では, 本研究の対象である分散環境におけるコミュニケーションと関連研究について整理している。次に, 本論文で扱うコミュニケーションについて定義し, 分散環境におけるコミュニケーションの課題, 状況提示の有用性について述べている。更に割り込み支援, ユーザインタフェースに関する先行研究, 状況提示支援システムに関する先行研究を示し, 最後に, 分散環境におけるコミュニケーション支援に向けた課題について整理している。</p> <p>第3章では, 実業務でのコミュニケーションにおける状況提示の影響について実態調査を行い, 調査の結果として得られた知見から, 分散環境における業務状況提示モデルを提案している。</p> <p>第4章では, 第3章で述べた基本モデルに基づき, 個人ワークを対象に業務状況提示を実装したプロトタイプシステムを用いて, 業務状況提示の効果を検証している。本プロトタイプには, ワーカーが抱える複数の業務に対して, それぞれに割り込み許容レベルを簡単に設定して, チームメンバーに提示可能にする機能が実装されている。このプロトタイプを用いた被験者実験の結果から, その効果と課題について述べている。</p> <p>第5章では, 第3章で述べた基本モデルに基づき, 会議を対象に会議の状況提示を実装したプロトタイプシステムを用いて, 業務状況提示の効果を検証している。本プロトタイプには, 会議中の会議参加者の相対的な状態から会議の状況を提示する機能が実装されている。このプロトタイプを用いた被験者実験の結果から, その効果と課題について述べている。</p> <p>第6章にて, 本論文の結論を述べている。</p> <p>以上のとおり, 本研究により, 分散環境において, 突発型コミュニケーションの開始を支援するための業務状況提示モデルが示された。これらの研究成果は, 工学上, 工業上寄与するところが少なくない。よって, 本論文の著者は, 博士(工学)の学位を受ける資格があるものと認める。</p>				
学識確認結果	学位請求論文を中心にして関連学術について上記審査委員会委員で試問を行い, 当該学術に関し広く深い学識を有することを確認した。 また, 語学(英語)についても十分な学力を有することを確認した。			